

# 安全・安心ネットワーク技術

## ● 狙い

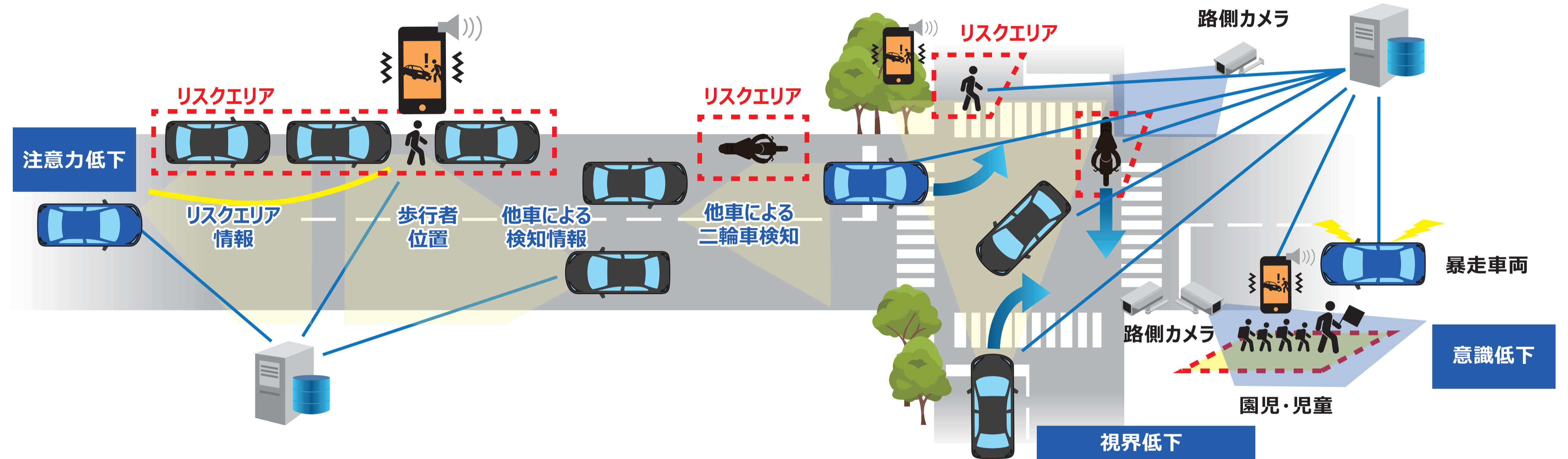
通信技術の活用により、それぞれの交通参加者の状態と交通シーンに応じた適切な情報を提供することで、誰もぶつからない交通社会の実現を目指す

## ● 技術内容

すべての交通参加者の行動、状態を推定、統合的に判断しリスクを予兆する技術で、事故を未然に回避

## ● 技術の特徴

- ・ 通信活用によりすべての交通参加者とつながる
- ・ カメラ/プローブ情報により交通環境に潜むリスクを集約
- ・ 個人の状態/特性に応じて適切にリスク情報を配信



### 環境・ヒトセンシング

行動予測・状態理解



運動行動から潜む危険を予知  
ストレス、体調変化を理解

すべての交通参加者の  
個の状態を推定

### 協調プラットフォーム

#### ● デジタルツイン

サーバー上に集約した情報群を地図に統合

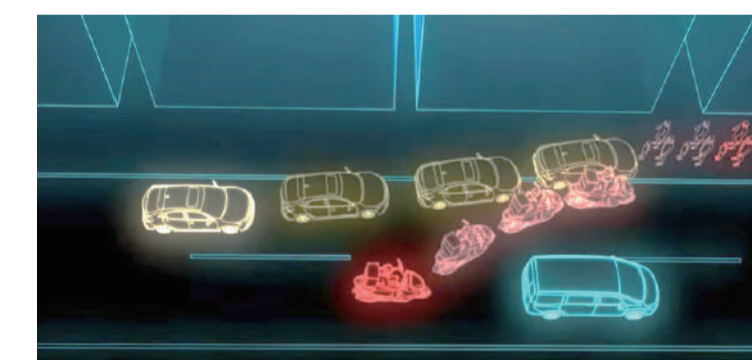
リアルタイム性  
↑ 高  
↓ 低

動的	・交通参加者の位置・人状態
準動的	・駐車車両の存在 ・故障車、渋滞情報
準静的	・交通参加者の人特性 ・規制情報・気象情報
静的	・車線情報



#### ● 統合リスク判断アルゴリズム

交通参加者の行動、状態を推定、統合的に判断しリスクを予兆



### 協調型リスクHMI

車両HMI

歩行者/  
二輪端末HMI



効果的な意図の共有により  
周囲と良好な関係を構築

早期社会実装に向け、協調プラットフォームの標準化を業界/官民一体で推進